

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 481 号	氏名	Nguyen Dong Tu
学位審査委員	主査 西田 教行 副査 中込 治 副査 平山 謙二		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、今なお世界的に下痢症原因菌として重要なコレラ菌の、ラフ型株、線毛産生相株における薬剤耐性化機序を明らかにしようとするもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 バングラデシュ分離線毛産生相株、ベトナム分離ラフ型株、ラオス分離ラフ型株を用いて、アンピシリン耐性化を誘導し、親株（感受性株）と耐性株の蛋白質発現パターンの相違をプロテオーム解析手法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、種々のラフ型株ではアンピシリン耐性化に伴い外膜蛋白の outer membrane protein U (OmpU) の産生が低下すること、一方、線毛産生相株では抗酸化ストレス蛋白の一つ cpxP が発現誘導されることを同定した。OmpU はアンピシリンの細胞内輸送に関わる可能性があり、また cpxP は線毛の機能を抑制し小腸上部での菌の定着に影響を与える可能性が示唆された。このようにアンピシリン耐性化における新たな2つの分子機構を見出した。今後の分子レベル研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はコレラ菌研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			